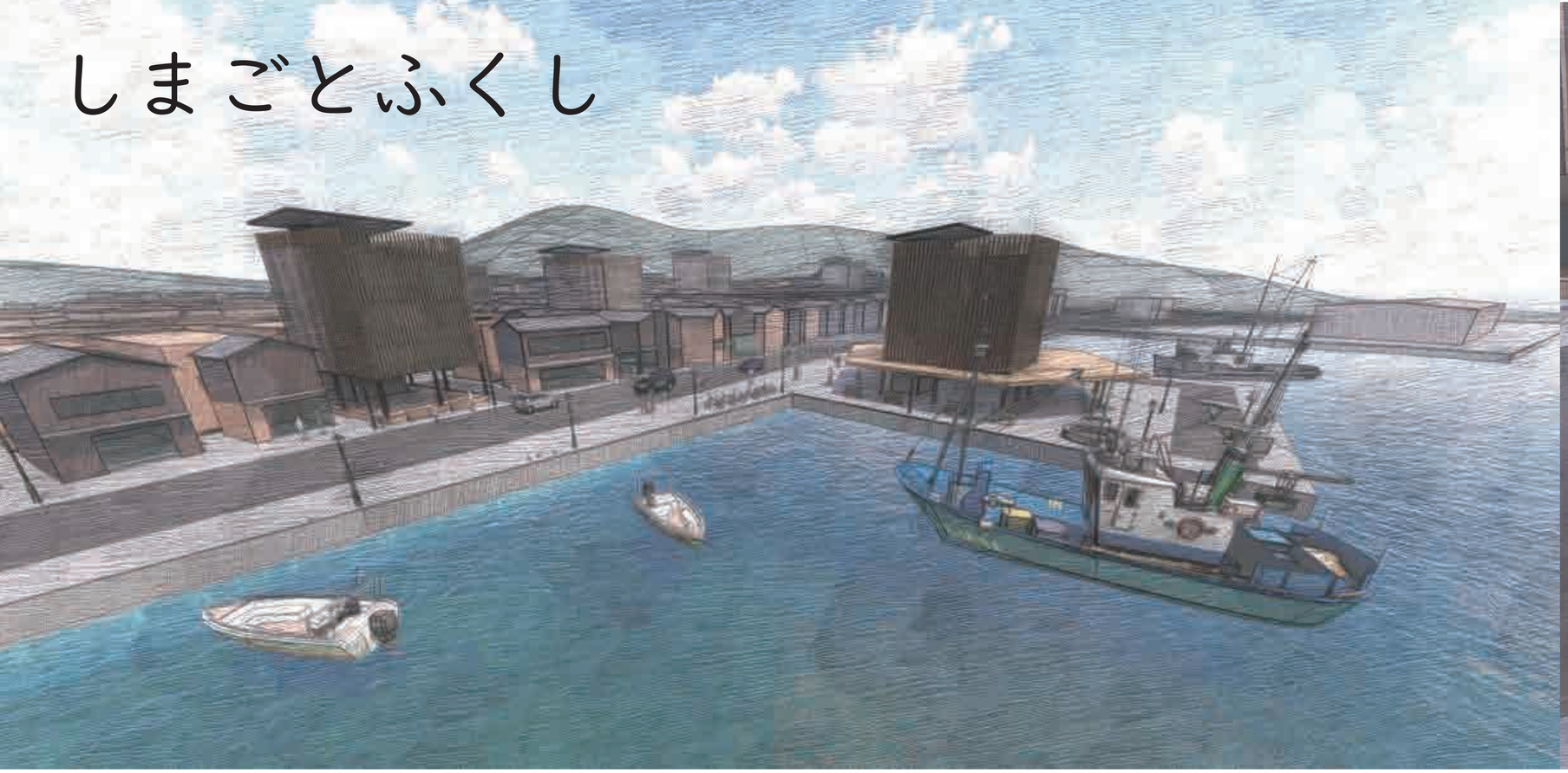
しまごとふくし



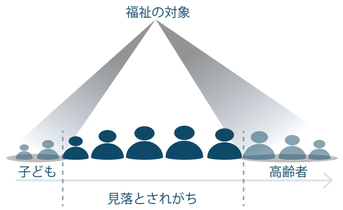
1. 背景

■ 福祉＝すべての人のため

- 福祉の対象 -

福祉＝すべての人

福祉とは何か、人それぞれ異なり福祉とは何かも人それぞれ異なるということであり、すべての人が福祉の対象である。しかし、すべての人が対象のはずの福祉には、見落とされてしまう層の人々がいる。



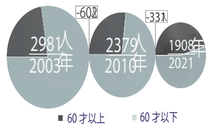
すべての人が対象であるはずの福祉のイメージは，子どもや高齢者に対する福祉が中心である。子どもと高齢者以外の福祉は、見落とされがちで充実していないのが現状である。これら人々は、助けてと声を上げにくかったり、目立たなかったりする。一番大きい問題は、長期失業・非正規労働によって貧困化・ホームレス化・生活困難化である。福祉はすべての人のものであるから、施設から広がるように住宅や地域に広がっていく必要がある。

2. 計画地

■ 計画地域：答志島

計画敷地である答志島は、三重県鳥羽市に属する人口 1900 人程度で３つの集落が集まり成り立つ。また、１ 年を通し様々な種類の魚が獲れ、集落の約８割の人が漁業関係の仕事についている漁業の島である。漁業も島の観光の一環としていて、海女小屋体験や島の自然を使った観光業も盛んに行われている。国内唯一、昔ならの寝屋子制度が今でも残っている貴重な島でもある。

■ 急速な人口減少と高齢化



現在、答志島では人口減少と高齢化が急速に進んでいる。高齢率も 35%増。今後も、人口減少と高齢化が顕著に進むと考えられる。

■ 福祉・医療施設の不充実

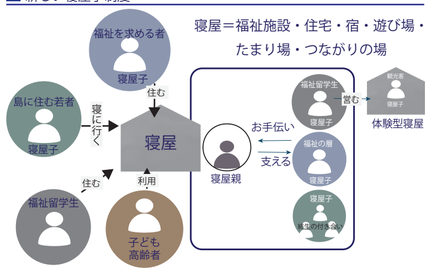
島の医療・福祉施設の数は、不足してる。24 時間の施設、滞在型の高齢者施設がない。なのでこれらを利用するには、島の外に行かなければならない。この為、島の福祉・医療環境の問題を早急に解決しなければならない。

3. 提案

■ 従来の寝屋子制度

答志島で古くからおこなわれている風習。島に住む若者が、寝屋に複数人で寝に行く。こうした日常の中で、若者は島で暮らす心構えやしきたりを覚えていく。現在、この制度を行っているのは、答志島のみになっている。また、島には 10 箇所の寝屋が存在する。

■ 新しい寝屋子制度



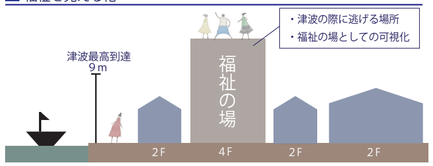
既存の寝屋文化を活用し、島の若者の他に、新しい人をいれる。様々な人が共に寝屋で生活を行う。島の共同生活することで、お互いを助け合い繋がりをつくる。既存の形を変え制度を存続させることで、それぞれの人の問題解決や、生活の助けになると同時に伝統を継承して、島独自の寝屋制度の喪失を防ぐ。また、宿泊可能な寝屋を作ることで、観光客などに文化の体験の機会を提供。

■ つながる福祉

島・集落に施設や機能を分散配置

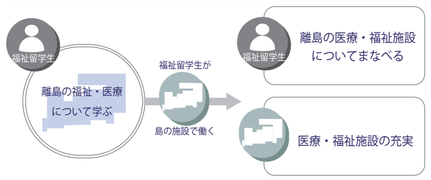
新しく来る間の層や観光客、島民などの人や島の昔ながらの風習の「寝屋子制度」、親しみのある道、施設、島民の必需品のじんじろ車、全てを答志島中に巡らす。新たにできた５つの要素（人・風習・道・施設・乗物）がそれぞれがそれぞれの場所で交わることにより島全体で繋がりを得る。至る所で繋がることで島全体で福祉を感じることのできる「島まるごと福祉」を提案。

■ 福祉を見える化



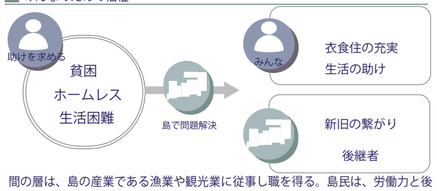
島の住宅や施設のほとんどが２階建てからなっているため、津波が起こった際は、島全体が水に浸ってしまう。そこで、福祉の場を４階建てにすることで、津波が起きた際も浸らないよ高さを上げる。また、福祉の場の高さを上げ、福祉の場を可視化することで、他の建物と区別化することができ、島のどこにいても福祉の場を捉えることができ、島全体で福祉を見守ることが可能。

■ しまへ福祉留学



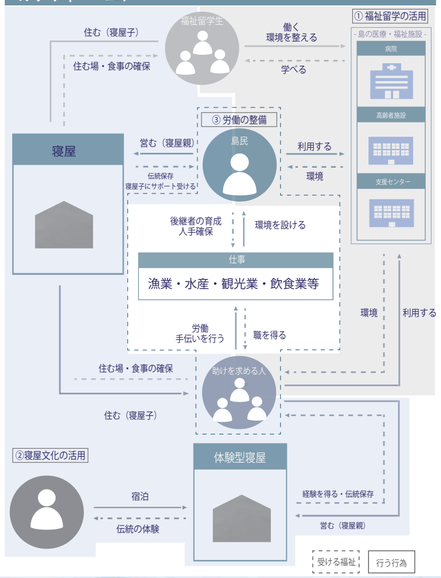
島の福祉・医療の不充実を補い改善するために、福祉留学制度を活用する。福祉留学とは、自らの学びと地域の課題解決を掛け合わせた留学制度。これにより、島は福祉・医療体制が充実し、留学生は島で「生きた学び」を経験をし、地域に根ざした活動を学ぶ。留学生は寝屋制度を活用し様々な繋がりができる。

■ みんなのための福祉



間の層は、島の産業である漁業や観光業に従事し職を得る。島民は、労働力と後継者を得ることができる。外からの入ってきたあいだの層の人と島民が互いにメリットのある関係ができる。仕事を通してあいだの層は、手に職を得て、自立し安定した生活を手に入れる。また、島で働くことで、新たなコミュニティが形成され助け合いの繋がりができ、島の福祉が充実する。

4. スキーム



島の中には、車の通り抜けることができていない路地が張り巡らされている。この、路地では、人とすれ違うと顔をあわせ立ち話する姿をよく見ることができる。また、各家の前の路地に荷物を置くなど路地自体も島民の生活空間の一部となっている。今までの島での井戸端会議は、道と人から成り立っていて、長い時間顔を合わせて行われていなかった。そこで、島民の生活の一部の路地にイスを挿入することで、長時間の井戸端会議やお茶会の開催の促進。また、島民と新しく来た人に繋がりを持たせる場所に。